

令和7年度 第1回高梁市在宅医療・介護連携推進協議会次第

日 時 令和7年7月4日（金）19時～

場 所 高梁市役所 2階 保健センター

1 開 会

2 あいさつ

3 協 議 事 項

（1）令和7年度高梁市における地域ケア会議の全体像について

＜令和7年度の事業計画について＞

（2）在宅医療・介護連携推進事業について

（3）実務者部会について

（4）高梁かんどねっとについて

5 そ の 他

6 閉 会

※令和7年度第2回高梁市在宅医療・介護連携推進協議会

日時：令和8年2月6日（金）19：00～

高梁市在宅医療・介護連携推進協議会委員名簿

令和6年4月1日～令和8年3月31日

◎会長 ○副会長

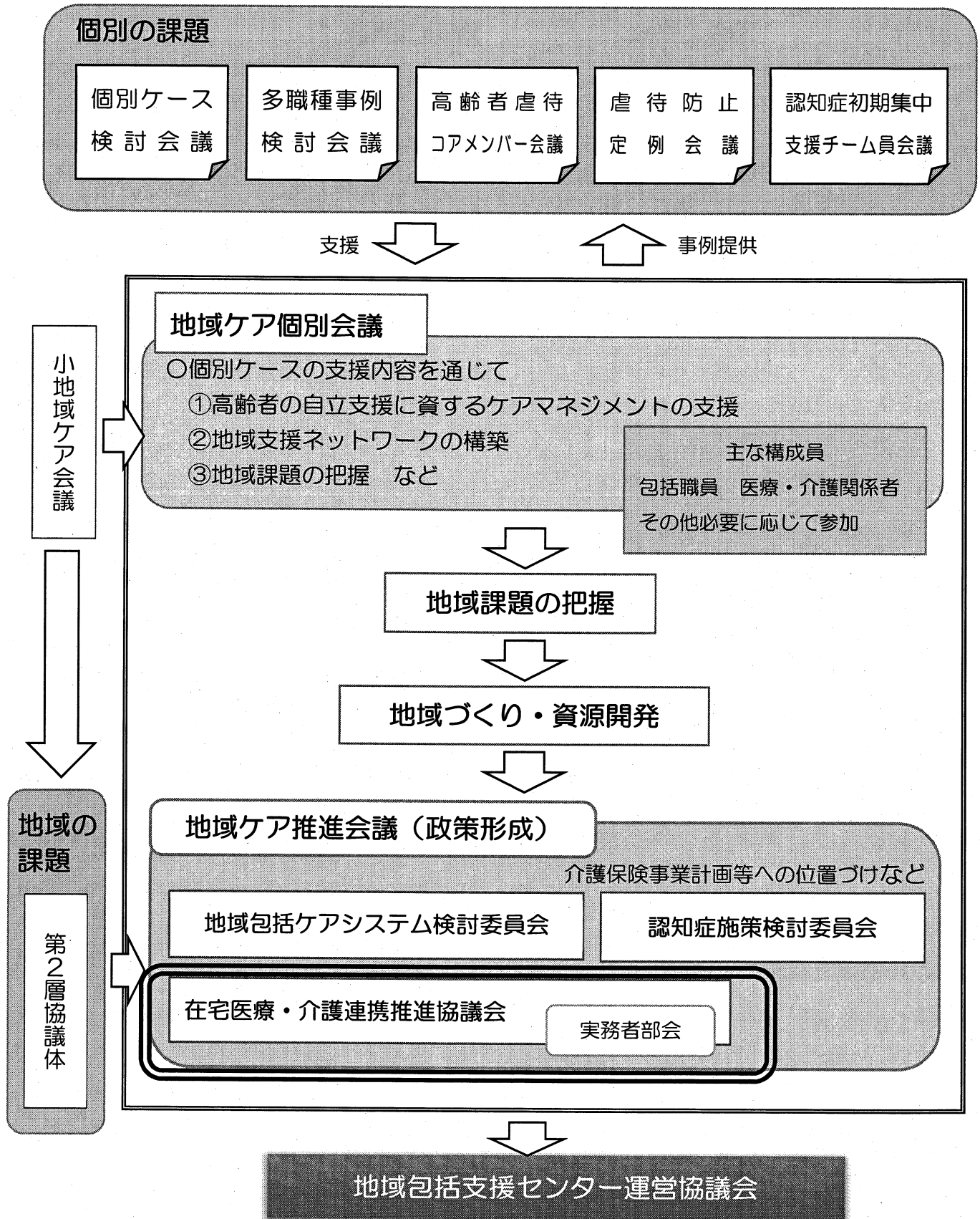
No.	所属及び役職名	氏 名	備 考
1	高梁医師会 会 長	◎ 仲 田 永 造	仲田医院
2	高梁医師会 理 事	鶴 見 尚 和	成羽病院
3	高梁医師会 理 事	野 村 良 明	野村医院
4	高梁医師会 理 事	松 浦 隆 彦	まっくらクリニック
5	高梁歯科医師会	樋 口 将	樋口歯科医院
6	岡山県薬剤師会高梁支部	笹 川 隆 弘	落合薬局
7	(一社)岡山県介護支援専門員協会高梁支部 ((一社)岡山県介護支援専門員協会 理事)	○ 草 野 貴 史	グリーンヒル順正
8	高梁市社会福祉法人連絡会	磯 村 葉 子	グリーンヒル順正
9	岡山県看護協会高梁支部	熊 本 里 子	大杉病院
10	岡山県栄養士会高梁支部 支部長	荒 木 枝 里	高梁中央病院
11	リハネット高梁	安 井 仁 見 代理 植田 崇弘	成羽病院
12	実務者部会 部会長	三 尾 あゆみ	高梁中央病院
13	実務者部会 副部会長	佐 藤 剛 紀	大杉病院
14	吉備国際大学 看護学部長	竹 崎 和 子	吉備国際大学
15	岡山県備北保健所 保健課 課長	田 頭 羊 子	備北保健所
16	高梁かngoねっと コーディネーター	原 田 邦 栄	高梁医師会
17	高梁市消防本部 警防課 課長	内 田 宏 範 代理 森宗 伸幸	消防本部警防課
18	高梁市健康福祉部健康づくり課 主幹	惣 田 美栄子	健康福祉部 健康づくり課

事務局

健康福祉部 地域包括支援センター 所長	秋森 貴恵
〃 〃 所長代理	赤木 日出美
〃 〃 参事	江藤 悦子
〃 〃 主幹	倉橋 重昭
〃 〃 保健師	中村 友樹

地域ケア会議体制図

「個別課題の解決」、「地域包括支援ネットワークの構築」、「地域課題の発見」、「地域づくり、資源開発」、「政策の形成」の5つの機能を有し、要因等を分析して再発防止へ繋げる。



令和7年度 高梁市在宅医療・介護連携推進協議会体制図

高梁市在宅医療・介護連携推進協議会

在宅医療及び介護を一体的に提供できる支援体制の構築を検討

- (1) 地域の医療・介護の資源の把握
- (2) 在宅医療・介護連携の課題の抽出及び対応策の検討
- (3) 切れ目のない在宅医療及び在宅介護の提供体制の構築推進
- (4) 医療・介護関係者の情報共有の支援
- (5) 在宅医療・介護連携に関する相談支援
- (6) 医療・介護関係者の研修
- (7) 在宅医療・介護連携に関する地域住民への普及啓発
- (8) 在宅医療・介護連携に関する他の自治体等との連携

構成員：各職種・団体の代表者など

実務者部会

- ・在宅療養を進める上での医療・介護現場の課題の抽出と連携推進
- ・推進協議会で決定した重点課題を多職種連携による協議で具体化
- ・専門職の資質向上と医療・介護関係者の連携を推進するための研修会

構成員：コメディカル・介護の実務者代表 など

コアメンバー

検討内容によって関係者を招集

高梁かんごねっと（高梁医師会）

- ・在宅医療・介護連携推進のための「看看連携」体制の確立
- ・教育機関・各種団体等と協働で取り組む人材確保と育成
- ・その他、在宅医療・介護連携推進と地域医療の実施に係る体制整備に必要な事業 など

構成員：市内病院・訪問看護看護師 など

令和7年度 高梁市在宅医療・介護連携推進事業計画（案）

全体目標	住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療と介護の関係者が協力して、在宅医療と介護の連携強化を図る。	
重点目標	医療と介護の関係者が協働・連携を図り、在宅医療と介護を一体的に提供できる。	
	ICTの利活用によって、業務の効率化や多職種間の連携を図ることができる。	
	人生の最終段階における望む場所での看取りを行えるように、医療・介護関係者が、対象者本人と人生の最終段階における意思を共有し、それを実現できるように支援できる。	
昨年度の 評価	医療機関及び介護事業所等で多職種連携の強化を図り、医療・介護サービスの質の向上につなげていくことは重要である。近年、リモートでの多職種研修会を企画していたが、昨年度は久々に対面での研修会を開催し、多くの専門職が参加し好評であった。兵庫大学 小倉 毅 先生を講師にお招きし「利用者側に寄り添ったコミュニケーション～マニピレーションの視点から～」と題し開催。利用者とのコミュニケーション技法について理解を深めた。実施後のアンケートから「良かった」と回答する方が、86%を超えるなど好評な研修となった。	
	業務効率化を図るとともに、切れ目のない医療・介護サービスを提供するため、ICTを活用した医療・介護連携システムについて全市的に運用を開始した。87事業所、113IDで運用を開始したが、その後も順調に参加事業所数が増え、令和7年3月末現在で、98事業所、126IDで運用をしている。情報共有・情報連携の機会が上がったと答えた方が「86.4%」、業務効率が上がったと答え方が「81%」を超えている等、有効な情報共有ツールとして定着をしている。	
	人生会議（ACP）について、吉備国際大学や住民主体のデイサービスなどの団体への講話や行政放送番組の放映などにより市民に対して普及・啓発を図った。また、医療・介護市民公開講座では、市内の医療・介護関係者の出演による寸劇にて、人生会議の理解・促進に努めている。人生会議の認知度が高まり、本人が望む医療やケアが進められることが期待できる。	
今年度の 主な事業	1. 令和7年度高梁市医療・介護市民公開講座 日時 令和7年11月9日（日） 場所 高梁総合文化会館 内容 若年性認知症をテーマにした映画「オレンジランプ」の上映 認知症簡易テストの実施	
	2. 人生会議（ACP）の普及・啓発	
	3. ICTを活用した医療・介護連携システムの在り方検討	
	4. 実務者部会実施事業 ・多職種連携研修会 ・医療介護地域ネットワークシステムの検討	
	5. 高梁かんごねっと（高梁医師会）委託事業 ・専門職のスキルアップと人材育成	
会議 (予定)	第1回	令和7年7月4日（金） ・在宅医療・介護連携推進事業の計画等について
	第2回	令和8年2月頃 ・今年度の事業取り組みについて ・医療介護連携システムについて ・次年度に向けての課題と方向性について

令和7年度 市民公開講座について（案）

1. 日時 令和7年11月9日（日）13時30分～16時00分
2. 場所 高梁総合文化会館
3. 内容

映画上映 13時45分～15時25分

内容 オレンジランプ上映（100分）

休憩

15時35分～15時50分

認知症について、認知症当事者の声の紹介など

さきがけホスピタル 児玉 昌純 先生

地域包括支援センター 職員

行事の前後で、認知症簡易検査を実施

1. 謝世英 CHIAH SHING, 1924/1/1, 臺南山仔頂街「永發號」, 內政部戶

どうする、私!!

それは、温かな灯りが紡いだ感動の美話

若年性認知症と診断された丹野智文さんの実話をもとに描く、夫婦の希望と再生の物語。年齢を重ねていく全ての人へ、より良く生きるヒントがここにある。

[illegible]

6/30
GAGA

＼ 知ることからはじめよう、脳の健康。/

ブレインパフォーマンスのセルフチェック



デジタルツール

のうKNOW®(ノウノウ)は「記憶する」「考える」「判断する」などの脳のパフォーマンスをチェックするツールです。

日々の生活をより充実させるための「ブレインパフォーマンス(脳の健康度)」が注目されています。仕事やスポーツで自分のパフォーマンスを意識するように、自身の脳のパフォーマンスについても考えてみませんか。

これは、「人生100年時代」を楽しく健康で暮らし続けるためにも大切です。まずは、できることから少しずつ始めてみましょう。

「私はまだまだ大丈夫!」と思っているあなたも、
「のうKNOW」(ノウノウ)で現在の脳の健康度をチェックしてみましょう。

デジタルツール

「のうKNOW」(ノウノウ)について

パソコン・タブレット・スマートフォンで4つのテストを行うことにより、あなたのブレインパフォーマンスを知ることができます。画面で表示されるトランプカードが自動的にめくられるので、「はい」か「いいえ」で答えて、チェックすることが可能です。

脳の反応速度チェック



カードがめくられたら
「はい」を押すことで
反応の速さを
チェックします。

注意力チェック



カードが
赤の場合は「はい」、
黒の場合は「いいえ」
を押すことで注意力を
チェックします。

視覚学習チェック



表示されたカードが
以前に出てきたものと
同じかを答えることで
視覚記憶力を
チェックします。

記憶力チェック



めくられたカードが
直前のものと同じかどうかを
みるにより、一時的に
必要な記憶の保持が
できているかをチェックします。

※画像はイメージです。

ここがポイント!

操作はカンタン!

- パソコン・タブレット・スマートフォンで手軽に実施!
- チェックにかかる時間は、約15分!
- 自分ひとりでチェックが可能!(セルフチェック)

豊富な実績

- 55か国以上で活用、100言語以上に対応!*
- 同年齢の平均と比べた、脳の健康度を確認!
- 定期的にチェックすれば、以前の結果と比較も可能!

※のうKNOW開発の基となったCogstate Brief Batteryにおける実績

疾病の予防や診断を目的としたものではなく、健康意識を高めるために行っていただくことを目的としています。

お問い合わせや「のうKNOW」(ノウノウ)について、詳しくは各企業や自治体、施設などの担当者へご連絡ください。



エーザイ株式会社

Powered by Cogstate

令和7年度 実務者部会事業計画

目標	・現場の声から抽出した優先課題の協議と解決を目指す。 ・課題解決への取組を通して多職種連携の強化と各職種の資質向上を図る。
----	--

昨年度の 評価	医療機関及び介護事業所等がICTの利活用により業務の効率化、多職種連携の強化を図り、医療・介護サービスの質の向上につなげていくことは重要である。今年度は集合形式で、兵庫大学 小倉 毅 先生を講師にお招きし「利用者側に寄り添ったコミュニケーション ～マニピュレーションの視点から～」と題した多職種連携研修会を開催し、51名の専門職が参加し理解を深めた。顔の見える関係の構築のため、今後も集合形式での研修会を開催していく必要がある。 業務効率化を図るとともに、切れ目のない医療・介護サービスを提供するため、ICTを活用した医療・介護連携システムのあり方を検討した。今年度より、87事業所113ID でラインワークスによる情報共有を全市的に開始。その後の介護事業所の参加があり、3月末現在で98事業所126IDで運用をしている。フォローアップミーティングについても2回実施。次年度以降の、効果的なフォローアップミーティングを実施するため、事業所への聞き取り調査の実施を行う予定である。また、医療情報の掲載の可否についても検討をするなど、運用方法の検証も随時行った。
主な事業	1. 医療介護地域ネットワークシステムの構築 ・ラインワークスを活用したネットワークシステムについて ・災害時のラインワークスの活用検討について 2. 多職種連携研修会 ・多職種の参加による研修会の企画、実施 3. ACPの実施に向けての活動 ・ACPについての視察研修

会議 (予定)	第1回	令和7年7月18日 ・実務者部会の事業計画について
	第2回	令和7年10月頃 ・多職種研修会について
	第3回	令和8年2月頃 ・今年度の事業取り組みについて ・次年度に向けての課題と方向性について
	アドバ- 会議	検討する内容によって適時開催

令和 7 年度高梁市在宅医療・介護連携推進事業

1. 地域医療推進に向けた体制強化、関係機関の連携構築

- 1) 高梁市在宅医療・介護連携推進協議会及び実務者部会、地域包括ケアシステム検討委員会、看護師等確保検討部会、看護協会高梁支部役員会等に参加
- 2) かんごねっと新聞の発行（6 月、10 月、3 月）

2. 看護職、介護職の地域医療スキルアップと人材育成

1) 企画会議

開催月日	開催場所	出席者	協議内容
5 月 20 日(火) 17:30~19:00	高梁医師会 2 階会議室	8 人	・スキルアップ研修について ・人材確保のための学生への PR について ・病院見学ツアー報告、その他、情報交換
8 月 12 日(火) 17:30~19:00	高梁医師会 2 階会議室	人	・スキルアップ研修について (予定) ・人材確保に向けた高等学校訪問について ・わくわく子どもフェスタ、その他、情報交換
11 月 11 日(火) 17:30~19:00	高梁医師会 2 階会議室	人	・スキルアップ研修について (予定) ・次年度の研修内容について ・その他
2 月 10 日(火) 17:30~19:00	高梁医師会 2 階会議室	人	・今年度の研修についての評価 (予定) ・次年度の計画について ・その他

* 各施設から研修についての提案を受け、計画、実施、評価を行う。

令和 7 年度研修企画

目標：看護職のスキルアップを図り、人材育成により、地域医療が円滑に提供できる。

研修名	対象者	開催回数
新入職者研修	新入職者	3 回
プリセプター研修	今後プリセプターとなる方も含む	2 回
看護研究研修	研究発表者	3 回

○新入職者研修

目 的：看護職としての実践能力を身につける過程において、自分の看護師像を描ける。

開催日は、1 回目 4 月 14 日 月曜日

2 回目 9 月 8 日 月曜日

3 回目 3 月 9 日 月曜日

開催場所は高梁市図書館

○プリセプター研修

目 的：プリセプターの役割を認識し、成長支援者としての知識・技術態度を身につける。

開催日は、1 回目 5 月 12 日 月曜日

2回目 10月17日 金曜日
開催場所は高梁市図書館

○看護研究研修

目的：看護研究の意義、目的を理解し基礎的能力を養う。
研究課題や、研究の進め方を学ぶ
最初に講義をしていただき、その後の進め方は検討する
開催日は、1回目 5月15日 木曜日
2回目 9月 4日 木曜日
3回目 12月11日 木曜日
開催場所は高梁市役所 会議室

令和6年度 新入職者研修会 (R7年 3月3日)

講師： 吉備国際大学看護学部 看護学科長 竹崎和子氏

日時： 3月3日(月) 15:30~17:00

内容：第1回 「コミュニケーション技法」

参加者：成羽病院 1名

高梁中央病院 7名

第3回 茶話会形式で開催

ー 講師からの質問について ー

*一年間で、一番印象に残っていることは？

- ・整形で、103歳女性がOpeし、退院できたこと。
急性期から、ゴールまで関わることができてよかった。しっかり声掛けができた。
- ・夜勤のときに患者さんの死亡があった。もう一人の看護師も、エンジェルケア未経験であり困った。
早めに先輩に手順を聞いていたが、もう少し、ああすればよかったなど色々考えることがあった。
- ・NPPV装着している患者さんが、認知症だった。
- ・認知症の患者さんの対応に困った。
5分毎にトイレ介助、患者さんは食べたくないと言っても、家族の食べさせてほしいという強い要望などあり困った。
人手不足であり、優先順位をつけて業務したいが、認知症の患者さんに時間を要してしまう。
改善方法を相談しても答えはみつからず、退院されるまでやりきれない思いだった。
- ・高齢者が多く、心不全も多い。ICにつくと、もやもやする。
点滴は必要だが、悪化にもつながることがある。
家族間でも、治療に対する意見が違うことから、ACPについても考える。救急搬送されても、高梁市内で利用している筒の持参をみたことがない。民生委員の人もいるはずなのに。
(講師より)
経験からしか学べないこともある。
倫理的ジレンマなど、答えが出ないものもある。
声に出して伝えていくことが大事。

*2025年度挑戦してみたいことは？

- ・6か月前に外来に異動した。色々な処置介助ができるようになりたい。
- ・入院対応できるようになりたい。医師の処置介助、診療補助にもつきたい。
- ・未経験の処置介助や、エンジェルケアも未経験なのでできるようになりたい。優先順位が、考えられるようになりたい。
- ・認知症患者さんも多く、倫理的な配慮ができるようになりたい。

《アンケートより》

*6人全員が、この研修に参加してよかったと回答

- ・自分を見つめ直すきっかけになった。来年も頑張ろうと思えた。
- ・1年間の過ごし方、看護師としての考え方の根本的なところが学べた。
- ・他の参加者の看護に対する考え方も、しることができた。
- ・同期として、似た環境のなかで其々の考えを知ることができた。
- ・他の病院の新人職員とも関わって、情報共有ができた。
- ・1年の振り返りができて、できなかったことばかりだと感じていたけれど肯定的な言葉を貰えて、1年間で成長できたこともあるのかなと実感できた。

*入職から今までの間で、看護師として不安に感じたり辛い思いをしたことはありますか？

- 一度もない・・・0名
- ほとんどない・・・0名
- 何度かある・・・4名
- 時々思う・・・2名

*不安を感じたのは、どのようなことからですか？

- ・周りの学校と自分の病院のスピード差を感じたとき
- ・自分の看護が命に直結していると思うと不安になる。
- ・スタッフと人間関係の構築が難しかったとき。
- ・人手不足で中堅看護師もいなく、教育的なことを相談できないこともあった。
- ・知識不足、経験不足、人間関係など

*新入職者研修を受講して感じたことは？

- ・高梁地域全体で、高梁の新人医療従事者を育てようという感じがして、とても安心して1年過ごすことができました。
 - ・他の人の話も聞くことができて、勉強になった。
 - ・誰も退職することなく、過ごせたことを嬉しく感じます。
 - ・おもしろかったです。また、このような機会があれば参加したいです。
 - ・地域の他の病院の同期の人と会える機会があってよかった。
- がんばっていることを他者評価してもらえたようで嬉しく、もっと頑張ろうと思えました。

・・・・・・・・令和7年度・・・・・・・・

★ 新入職者研修（第1回目）

講師： 吉備国際大学看護学部 看護学科長 竹崎和子氏

日時： 4月14日（月）15：30～17：00

場所： 高梁図書館

内容：第1回 「コミュニケーション技法」

参加者：成羽病院 1名

高梁中央病院 7名

*自己紹介（看護師を目指した理由）

- ・中学3年時、病気で入院した。入院時の看護師が優しかった。
- ・人のために何かしたいと考えていた。ずっと決まっていなかったが、看護師を目指すことにした。
- ・姉が看護師をしている影響もある。入院時の看護師が優しかった。
- ・人を助ける仕事がしたい。コストも良い。
- ・カンボジアの医療も発達していないため、発信していきたい。

- ・高校1年時、事故で入院したときの看護師が優しかった。
- ・母親が医療従事者である。家族の入院時の看護師が優しかった。
- ・人に寄り添った仕事がしたかった。資格取得しておくで将来、活かせる。

*自分の看護観

- ・患者、家族に「受け持ってもらってよかった」と言われる看護師になりたい。
- ・患者を尊重する、優先する。
- ・患者に「ありがとう」と言われると嬉しいし、互いに嬉しい気持ちになれるようにしたい。
- ・患者が安心できる看護を提供し、患者を笑顔にしたい。
- ・自分の意見を押し付けず、患者の意見を尊重する。

*アンケート結果より

【本日の学び】

- ・看護師になった理由を述べ、初心に戻って自分の看護観を改めて見直すことができよかった。明日からの仕事を頑張ります。
- ・自分は、あまり話を聞くのが上手ではなく、自分の話ばかりしてしまうので「オウム返し」やペーシングを使っていきたい。
- ・話す時間をおおよそ4～6割で、お互い話すと会話が弾むと学んだので、人と話すときは心がけようと思った。
- ・先生から質問されたときに、とても話やすく、コミュニケーション技法を使われているのだろうと思いました。
先生のようなコミュニケーションを行い、患者さんや職場の先輩方と信頼関係を築いていきたいと思います。
- ・看護を行ううえで、コミュニケーションはとても大事であると改めて感じることができました。私は、コミュニケーション力があまり高くないので、これからコミュニケーション力を高めていきたいです。
また、これから大変なことがいっぱいあると思うので、同期や先輩に相談しながら一歩ずつ進めていきたいと思いました。

★ 看護学校訪問

4月21日(月) 県北 4月22日(火) 県南

月日	訪問先	対応者	訪問者
令和7年 4月21日(月)	吉備国際大学	キャリアサポート 下崎氏 看護学科 本郷貴士 助教授	さきがけ 井村看護部長 大杉 熊本総看護師長 成羽 高下看護部長 高梁中央 森看護部長 市役所 清水 惣田 笹部 かんごねっと 原田
	県立真庭高等学校	藤井 邦臣教頭 (今後、まつだ先生)	
	岡山県立大学	助産学 三谷明美 准教授	
	川崎医療福祉大学	富田 早苗 教授	
4月22日(火)	倉敷中央高等学校	河本 恵理子 看護科長	さきがけ 井村看護部長 成羽 高下看護部長 高梁中央 森看護部長 市役所 清水 惣田 かんごねっと 原田
	倉敷翠松高等学校	尾崎 由加利 実習調整者	
	倉敷看護専門学校	牧野 尚子 教務科長	
	玉野総合医療専門学校	吉見 美保 教員	
	川崎医療短期大学	吉井 一恵 助教授 伊藤 由加 講師	
	旭川荘厚生専門学校	岩本 美代子 看護学科長	

- * (吉備国際大学)
 - ・今年度、30 名の新入学生と 5 名の編入生あり、内 3 名は県内出身。
現在の学生は、文字離れしている。動画など目からの情報は入りやすい様。
- * (真庭高等学校)
 - ・今年度、9 名入学あり高梁市出身者はいない。
- * (岡山県立大学)
 - ・訪問看護師に新入職したい希望学生も増えてきた。
保健師希望は、5、6 人。助産師希望は、10 人程度。県内学生は、約 3 割。
倉敷、岡山市内への就職が多い。
- * (川崎医療福祉大学)
 - ・120 名の定員で、131 名の新入学生があった。
3 年生の学生は、地域組織活動を学ぶため、井原市美星町の見学、実習地域としている。
- * (倉敷中央高等学校)
 - ・定員 40 名。専攻科に進学する学生が多い。
現在、2 年生は 37 名。
- * (倉敷翠松高校)
 - ・22 名進学。就職先を選ぶ基準として、きれいな建築物を好む学生が多い。
実習病院の平成、しげい、倉敷第一、松田病院への就職が多い。
- * (倉敷看護専門)
 - ・41 名入学。毎年、4～5 名が県外就職する。
卒業生の声を聴く場、授業外の時間をとることは可能。
- * (玉野総合医療)
 - ・40 名定員で、28 名入学。
高梁市内の学生が、協立病院に就職したが、いずれは高梁市内にもどりたいという意向がある。
就職先は、ホームページなど参考にしている。
高梁市内にも学生宿泊施設があるとよいですね、と。
- * (川崎医療短期大学)
 - ・80 名の入学あり。
就職先に東京、大阪などの大病院を好む学生もある。
精神科実習は、仁風病院、河田病院。
- * (旭川荘厚生専門学校)
 - ・54 名の入学あり。内、2 割が社会人入学。社会人入学が、増加し 50 歳代が
3 名入学した。社会人は、しっかり学習もされるし、若い学生にとって社会人と一緒に学ぶこと
がよいことに繋がっている。
社会性、人間性も養われる。
就職先は、実習病院が 3 割、市内が 4 割、県外が 3 割。(地元に戻る)

★プリセプター研修 (第 1 回目)

講師： 吉備国際大学看護学部 看護学科長 竹崎和子氏

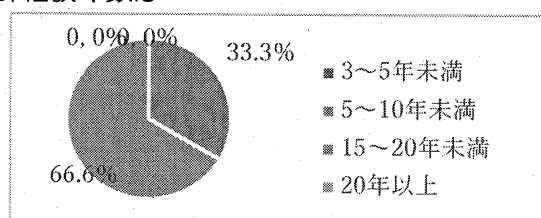
日時： 5 月 12 日 (月) 17:30～19:00

場所： 高梁図書館

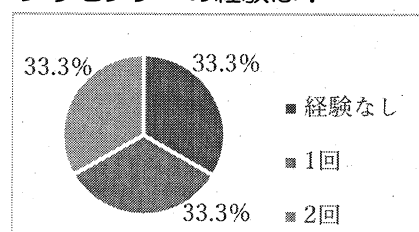
内容：第 1 回 「プリセプターシップとは」

参加者：高梁中央病院 3 名

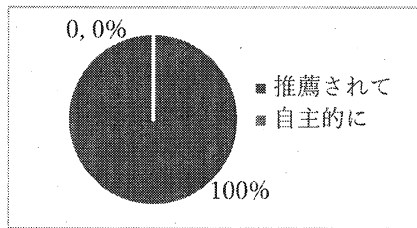
1. 看護師経験年数は



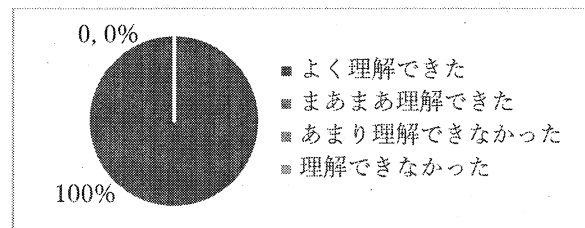
プリセプターの経験は？



2. 研修受講の動機について



3. 今日の研修について



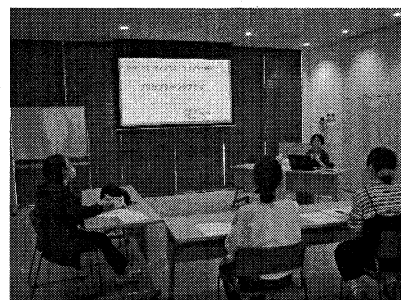
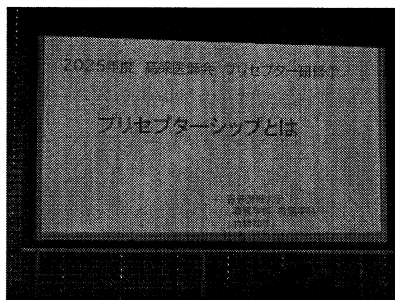
3. 研修の受講理由

(上司の薦め)

- ・プリセプター経験が久しぶりだったから。
- ・プリセプティーとの関わりに悩んでいたため、対応の仕方など知りたかった。
- ・この度、プリセプターを依頼されたから。

4. 研修で、プリセプターシップについて理解できましたか

- ・不安な点も、先生に相談できアドバイスをいただけたので、自分のペースで新人さんに淡々と指導できるように心がけていきます。
タイプは違いますが、日々の関わりにも心掛けていきます。
 - ・新人さんの対応について、どうしたらよいか具体的に知ることができたので明日からの関わりに活かしていきたいと思います。
 - ・先程、先生にもお伝えしましたが、我が子を育てるように全てが初めてである子に対して接するように、コミュニケーションをとっていききたいと思います。
- 本当に、今日はみのある講義をありがとうございました。明日からの業務に活かしていきたいと思います。



★ 看護研究研修（第1回目）

講師： 吉備国際大学看護学部 看護学科長 竹崎和子氏

日時： 5月15日（木）17:30～19:00

場所： 高梁市役所

内容：第1回 「看護研究の基礎知識」

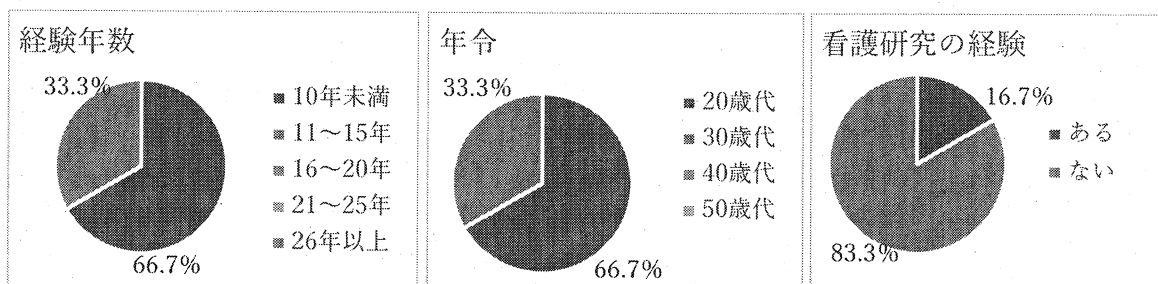
参加者：高梁中央病院 3名

成羽病院 1名

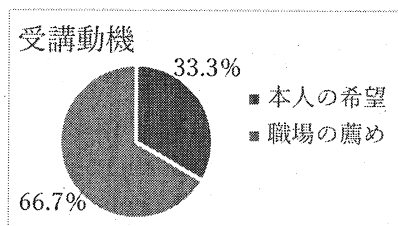
さがかけホスピタル 2名

看護研究研修会① アンケート結果

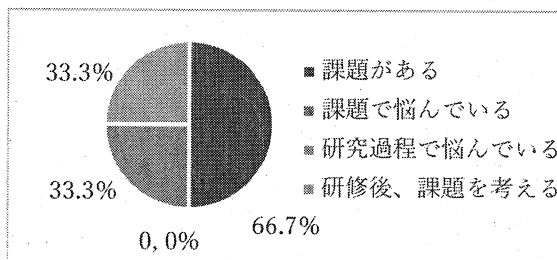
1. 自身について



2. 受講動機について



3. 看護研究を進めるにあたり（複数回答）



4. 看護研究をする上で、悩んでいること等。

- 研究テーマの決定。テーマの中からどこに視点を当てるかが、難しいと考えた。
- 看護研究をする意義として、よりよい看護を患者に提供していくことができるという点があると思うが、看護研究を行うにあたり病棟看護師が同じ視点や同じ対応を患者に行うことが大切である。看護師によって、思いや仕事への取り組みが違うので、同じ条件で研究をすすめていくのは難しそうだと感じた。
- 看護研究の課題は、大まかな内容は決めたが研究過程をすすめていくなかで、一緒にすすめていくチーム内でのすすめ方、考え方の違い、研究をすすめていくイメージの違いに悩む。そして、研究の目的・終わり方、しめくりかたが曖昧であるので、どのように切りつめると良いかわからない。
- 分析方法、リッカートR度を使用した調査票をスタッフに配布しようと考えているが、対象者への質問に悩んでいる。
文献検索の仕方も、参考文献はあったが資料や教科書などは、どのようにして見つけるとよいかわからない。
- 看護介入を行い、データとして結果はでているが、考察について検討していく必要があり、どの視点で考察をしたらよいか、悩んでいる。
- 論文をまとめたり、考察を考えたりすることが難しいと感じている。

5. 受講しての感想

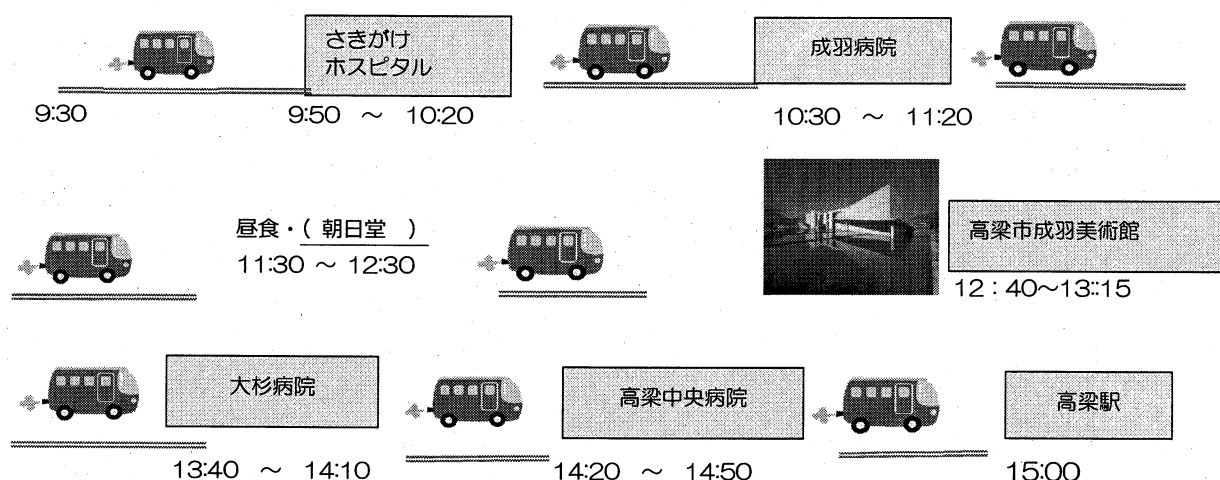
- 何を目的として、だれのために行う研究なのか、とてもわかりやすかった。
他の方の研究内容をきいて、今後研究を取り組むにあたって考えやすかった。

- DCP 病棟に所属しているが、入院や Ope によりせん妄になるかたが多く、抑制開始することが多い。抑制解除できそうは方にも、まだ抑制が使用されていたり、抑制をされたまま療養に移動されるかたも多いので、抑制を解除する基準お病棟でつくれば少しでも早期に抑制解除に繋がるのかなと感じた。
- 研究目的、テーマをしぼることに一番悩んでいたが、研究のうえで一番難しいところであることが理解できた。他の病院の方の研究テーマ、また悩みもすることができ、心強かった。お話をきくことができ、頑張ろうと思った。
色々、悩んでいるところを、「それで良いの」「大丈夫」と言ってくださり安心しました。
- 患者さんの思いがどのように変化するのか、テーマを変更するほうが意義のある研究になると助言を頂いたので、これから頑張ろうと思います。
とても勉強になりましたし、本日の先生の意見を参考にすすめていきたい。
時間が足りないな、と思いあせりを感じている。先生、お忙しい中、ありがとうございました。
- 一つのテーマでも、みる視点により様々な考察ができること、現在考えているテーマに対して新たな視点を考えることができ、とても貴重な時間でした。ありがとうございました。
- 基礎的な内容から研究への個別的な助言をいただくことができ、とてもよい研修会でした。
看護研究に、より前向きな気持ちになりました。

★病院見学ツアー

5月17日(土)

市内の病院めぐり行程



参加者

- * 新見共生高等学校 3年生 2名 (カンボジア 留学生)
- * 倉敷翠松高等学校 看護学科 1年生
- * 旭川荘厚生専門学院 看護学科 2年生

(社会人であった50代後半男性、親の介護経験もあり、今後、看護師免許を取得し地域に役にたちたいと考え看護師の道を選んだ。勤務先は退職し、看護学校に通学している)

アンケートから

- 今後も、日本語を勉強し看護師資格が取得できるよう頑張る
- パンフレットを見て興味が湧いた

- ・リハビリに特化した病院があり、印象に残った
- ・それぞれの病院の特徴をみることができた
それぞれの役割で地域医療のため、患者様への支援に取り組まれていることが、よくわかった
- ・新任看護師が、安心して勤務できるよう配慮されていることもうかがえた
- ・高梁市に遊びにきたい、さんじゅーろーにも会いたいと思った
- ・岡山市の大病院と同様の役割、災害搬送病院、職場の役割の重さ、勤務の重さなど感じた
- ・日頃、学校の勉強と地域医療の現場を結び付けて考えることの観点で、本日 4 病院を見学でき、ありがとうございました
カンボジアの留学生が、新見高校で頑張っている様子も日本の地域とカンボジア、東南アジアのことを考えるうえで、励まされました
- ・今後の実習にも活かしていきたい、また、高梁市に来てみたい

~~~~~

看護学校訪問時、30代～50代の看護学生が学んでいる、看護師を目指していると担当教員より聞いていたが、実際にツアーに参加された。  
社会人経験者にて、各病院の特徴をしっかりとつかむとともに、看護部長に質問もされていた。10代から、50代の参加者であったが4人がそれぞれ、興味深く病院を見学され、看護部長の説明に耳を傾けていた。  
カンボジア高校生は、日本語も上手であり看護師になりたい気持ちで、より一層高まったと感想が述べられた。  
今後も、市内勤務できる看護師確保にむけ、活動を継続したい。

#### ★ 訪問看護情報交換会（第1回目）

- 日時： 6月12日（木）17：30～19：00  
場所： 高梁医師会 2 階  
出席者： 各訪問看護ステーション管理者、高梁市地域包括支援センター、かんこねっと、岡山県看護協会訪問看護総合支援センター長  
内容： 1）本年度の訪問看護ステーションの情報交換会の計画  
企画会議内容報告  
岡山県看護協会訪問看護総合支援センターより、地域の機能協会について  
2）情報交換  
3）看護協会支援事業と別に、定期的情報交換会を継続する

#### ★ わくわく子どもフェスタ21

- 日時： 6月14日（土）10：00～15：00  
場所： 高梁市栄町商店街  
出席者： かんこねっと、高梁市健康づくり課、市内2病院より2名ボランティア  
内容： 子どもたちの将来の職業として、看護体験を実施し、看護に興味をもってもらうことを目的とする。吉備国際大学看護学生と一緒に子ども、親にも看護体験を実施してもらう。  
・子ども用のユニフォーム着用し、写真撮影  
・奨学金制度、市内4病院の病院紹介をかねたパンフレット、パネル展示  
・学生による体験コーナー  
赤ちゃんを抱く、おむつ交換、哺乳  
包帯巻  
聴診器を使用した心音聴取  
看護体験の感想をシール貼り  
・スタンプラリー集めて、お菓子をもらう

## ★ 危険予知トレーニング（KYT）研修会

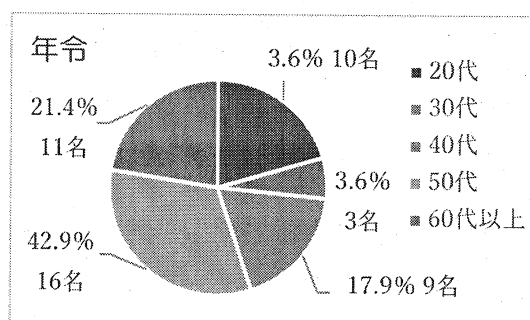
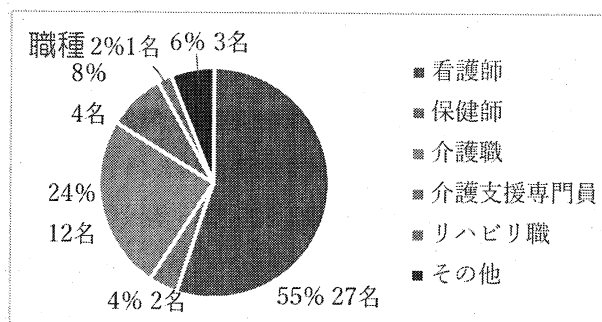
講師： 吉備国際大学看護学部 看護学科 がん看護認定看護師 門倉康恵氏

日時： 6月27日（金）18：30～19：30

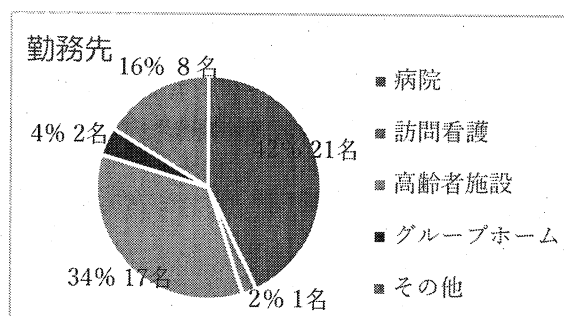
場所： 高梁市役所

アンケート結果 （49名回収／50名参加）回収率 98%

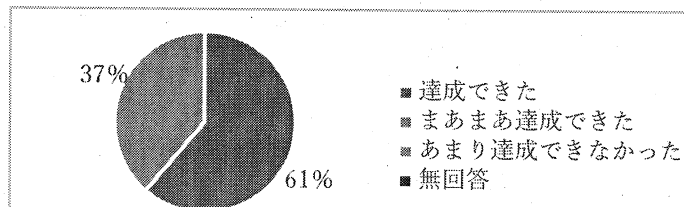
### 1. 自身について



### 2. 勤務先



### 3. あなたの研修の目的は、達成できましたか？



《その理由》

- 今後、常にリスクがあると思いながら行動する。
- KYT トレーニングが体験でき、勉強になった。
- ヒヤリハットを報告することで、ひとつの危険を回避できると理解できた。
- 症例検討ができたので、対策方法をまなぶことができた。
- 研修受講したのが、自分だけではなく職場全体で患者、利用者さんに危険が及ばないよう防止に努めていきたい。
- グループワークも楽しく、理解しやすい内容だった。
- KYTに興味が多いにあります、参考になったので、今後に役立てたい。
- これからも職場で研修し、色々な人の意見を取り入れヒヤリハットを話し合いたいと思う。
- 日常のいろいろな場面を改めて見直す機会をもつことが大切だと再認識し、事故防止に努めていきます。
- 人間はだれでも間違えるということを前提にすると、少し気が楽になります。間違いないかどうかを色々な面から、検証していくことが大切だと感じた。
- KYT 研修というものを知らなかったが、グループワークで症例検討し、しっかり理解できた。事前に考えること（KY）の必要性を感じた。 有意義な研修だった。
- 普段行っているケアに潜んでいるリスクを考えることができた。改めて患者さんに興味をもつことが、事故防止につながるのだと感じた。インシデントレポートの必要性も理解できた。
- 利用者さん、一人一人について、細かく考えることができた。注意事項も思い浮かんでよかった。
- 医療安全をがんばっていこうと思った。
- 人間は誰でも間違える、ということを改めて認識できた。

4. 今後の研修希望や感想

- 医療と介護との連携で繋がる研修なら、どんな内容でも受講したい。
- 患者の急変時対応。
- 口腔衛生。

## 内規

(平成25年5月20日制定)

### 高梁市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱（内規）

#### （設置）

第1条 在宅医療及び介護を一体的に提供できる支援体制の構築を検討することを目的とし、高梁市地域包括支援センター運営協議会要綱（平成18年高梁市告示第85号）第9条に基づく協議会として、高梁市在宅医療・介護連携推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

#### （所掌事務）

第2条 協議会は、次の事項について協議及び検討を行う。

- (1) 地域の医療・介護の資源の把握に関すること。
- (2) 在宅医療・介護連携の課題の抽出及び対応策の検討に関すること。
- (3) 切れ目のない在宅医療及び在宅介護の提供体制の構築推進に関すること。
- (4) 医療・介護関係者の情報共有の支援に関すること。
- (5) 在宅医療・介護連携に関する相談支援に関すること。
- (6) 医療・介護関係者の研修に関すること。
- (7) 在宅医療・介護連携に関する地域住民への普及啓発に関すること。
- (8) 在宅医療・介護連携に関する他の自治体等との連携に関すること。

#### （組織）

第3条 協議会は、関係団体の代表者、関係行政機関の職員その他市長が必要と認める者をもって構成する。

#### （任期）

第4条 委員の任期は、2年とする。

- 2 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 公職にあることにより選任された委員は、その職を退いたときに委員の職を失うものとする。

#### （会長及び副会長）

第5条 協議会に会長1人及び副会長若干人を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会の会議は会長が招集し、その議長となる。

(専門部会)

第7条 第2条の所掌事務に関する具体的事項について調査及び研究するため、協議会に専門部会（以下「部会」という。）を置くことができる。

2 部会は、会長が委員並びに医療、介護及び福祉関係者等の中から指名した者で構成する。

3 部会に部会長及び副部会長を置き、会長がこれを指名する。

4 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(意見の聴取)

第8条 協議会及び部会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その説明を受け、または意見を聴取することができる。

(庶務)

第9条 協議会の庶務は、地域包括支援センターにおいて処理する。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成25年5月20日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年4月1日から施行する。

附則

この要綱は、令和4年4月1日から施行する。